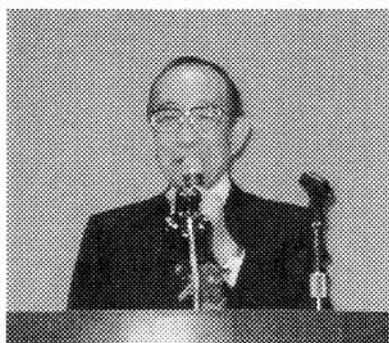


あいさつする平田賢会長



日本コーポレーションセンター主催の「コージエネレーションシンポジウム2007」が12月5、6日の両日、東京・大手町の経団連会館で開かれ、2日間で800人を超す参加者が集まつた。今回のシンポジウムではバイオマス発電や燃料電池などを中心に、最新の技術動向が紹介された。

井熊均・日本総合研究所創戦略センター所長は特別講演で、原油価格の高騰でエネルギー転換の必要が迫られる中、資

源の少ない日本に最も合う燃料として、静脈(廃棄物系)バイオマスを挙げた。「バイオマス事業が本格化すれば、収集工場からもオンラインサイ

トが効率がいい。そうすれば分散電源事業の二一

ズは高まるだろう」と、新たな事業展開の可能性についても言及した。バイオマス関連の技術開発では、中部電力が木

日本コーポレーションセンター主催の「コージエネレーションシンポジウム2007」が12月5、6日の両日、東

源の少ない日本に最も合う燃料として、静脈(廃棄物系)バイオマスを挙げた。「バイオマス事業が本格化すれば、収集工場からもオンラインサイ

トが効率がいい。そうすれば分散電源事業の二一

ズは高まるだろう」と、新たな事業展開の可能性についても言及した。バイオマス関連の技術開発では、中部電力が木

# コージエネシノボ'07 新たな分散型モードル提案

## バイオマスや燃料電池など

質バイオマス燃料のスターリングエンジン実証試験について紹介。

燃料を選ばず小規模な設備でできるが発電コストが高く、エンジンに灰が付着し出力低下の原因になるなどの課題もある

そのほか、三菱重工業はSOFICとマイクロガスタービンを組み合わせた200キロワット級コンバインドシステムの実証で年度から取り組んでいる海藻バイオマスプラントの実証で実用化にメドをつけ、事業化に向けた動きを進めていることを発表した。

一方、燃料電池では家庭用固体酸化物型燃料電池(SOFC)の実証事業を今年度から実施しているNEDOが、事業概要を説明した。採択された29台のSOFICは関西地区を中心に設置を進め

ており、来年1月には本格的な実証運転を開始する予定という。

そこで、大阪ガスは集合住宅での水素供給燃料電池コージエネ実証について、住棟全体の1次エネルギー消費量を10%削減できたとした。